

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和3年12月7日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから12月7日の原子力規制庁、定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿いまして説明をいたします。

明日の委員会の定例会の議題は4つあります。

議題1、標準応答スペクトルに関する審議結果ということで、今回は島根発電所についてということです。

島根原子力発電所について、基準地震動の変更は不要という案を諮るというものです。

11月26日にこの件の公開会合がありまして、そこでの審議結果を受けて委員会に諮るというものになります。

議題の2つ目ですけれども、デジタル安全保護系に関する日本電気協会規格の技術評価というものですけれども、民間規格の技術評価というのを計画的に行っているところで、そのうち、デジタル安全保護系に関する技術評価、これについて新しく検討チームを設けまして、今年度中に公開の場で技術評価をするという方針を諮るということになります。

議題の3つ目ですけれども、水素防護に関する知見の規制への反映に向けた検討状況ということですが、これは1Fの事故分析検討会で得られた知見のうちの水素防護につきましても、8月18日の原子力規制委員会で年内を目途に幾つか知見が得られたわけですが、水素防護だけ切り出して先に検討して結果を報告するという指示がありまして、その検討結果を報告するものになります。

議題の4つ目ですけれども、令和3年度原子力規制人材育成事業の選考結果ということですが、人材育成事業というのが平成28年度から継続してやっておるものでありますけれども、それについて今年度の事業の公募を行いまして、12件応募がありまして、うち6件採択しましたという旨を報告するというものになります。

もう一つが、2ページ目、裏面のほうですけれども、12月13日の（4）の核燃料施設等の審査会合です。

議題は2つありますけれども、2つともにJAEAの大洗研究所関係ということになります。

1つが廃棄物管理施設、固体廃棄物減容処理施設でありますけれども、その設工認につ

いてというもの。

もう一つは常陽でありまして、常陽は、これまで解析コードの議論を続けてきましたけれども、今回は設備本体ということで、試験用燃料体についてということになります。説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属と名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。

ありがとうございました。

—了—